

GXで北海道・札幌はどう変わるのか？ ～インパクト投資がもたらす地域経済への可能性～（報告）

- 主 催：平和不動産株式会社、札幌市
- 協 力：Team Sapporo-Hokkaido
- 開催日時：令和7年10月22日（水）16:00～18:30
- 会 場：札幌グランドホテル 本館2階 金枝の間
- 参加人数：約70名（登壇者・関係者含む）

【第1部】セミナー

○開会の挨拶

○「札幌のGX国際金融都市構想について」 札幌市 西山 香織 まちづくり政策局GX推進担当局長

○「FinGATEについて」平和不動産株式会社 ビルディング事業部

○パネルディスカッション

「GXで北海道・札幌はどう変わるのか？～インパクト投資がもたらす地域経済への可能性～」

パネリスト：盛 英二氏（ほくほくフィナンシャルグループ 北海道銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室 特命担当部長）

松下 敏之氏（カディラキャピタルマネジメント株式会社 代表取締役）

岡崎 貴彦氏（PINECONE Holdings株式会社 投資ディレクター）

木村 大樹氏（Keyaki Capital株式会社 代表取締役CEO）

モデレーター：牧之瀬mumu氏（一般社団法人国際資産運用センター推進機構（JIAM））

○閉会の挨拶 中尾 友治 氏（平和不動産株式会社 執行役常務）

【第2部】ネットワーキング



GXで北海道・札幌はどう変わるのか？ ～インパクト投資がもたらす地域経済への可能性～（報告）

パネルディスカッション パネリスト発言要旨

<盛氏>

- ・GXには「自然や地域との共生」や「コスト構造の変化」といった課題があり、一つの問題が「点」で捉えられがちだが、日々の生活を豊かにし、社会課題の解決にも繋がるという大きな世界観を共有できる関係者を増やしていくことが重要。
- ・Team Sapporo-Hokkaidoは、地域・中央省庁・メガバンクなど、日本全体で取り組んでいるのが大きな特徴。ここ半年でスタートアップやFinGATE的な形を含め、少しずつ具体が見えてきた。今後も様々なプレイヤーが参画できるよう、情報を見える化してPRしていくことが必要。

<松下氏>

- ・上場企業を対象に、インパクト投資家、サステナビリティを重視する投資家の資金を受託して運用。
- ・インパクト投資においては、「社会性と経済性の両立」と「インパクトの可視化」が重要なポイント。
- ・社会に対するポジティブなインパクトとネガティブなインパクトの両方を可視化して、環境との共生についてきちんと対応していく姿勢を持つ企業が出てきている。
- ・9月に札幌市主催のGX視察ツアーに参加。ここ数年でGXのプロジェクトが非常に進んでいるような印象を持った。今までにない動きが実現しようとしている局面で、札幌・北海道に面白い兆しが出てきていると感じる。

<岡崎氏>

- ・持株投資会社という形で、永続保有または超長期保有を前提に、昨今喫緊の課題である中小企業の事業承継問題に対して、一つのソリューションとして投資活動を行う。
- ・地方において、一つの会社の存続有無は地域経済に与える影響が大きい。その意味では、事業承継も広義の「インパクト」。各企業の自主性を重んじながら、意識・行動・数字の変化を起こし、長い目で伴走支援をしていく。
- ・北海道は150年の歴史の中で、柔軟性・多様性が他の地域に比べて非常に高い。道内での譲り受けにも期待。

<木村氏>

- ・世界のプライベートアセットを日本の個人も含めた投資家に提供。
- ・プロ(ファンド)が目利きをして需要者に資金を配分していくのが「ファンド金融」。優れた資金需要者に直接資金を届けることで、社会に対してインパクトをもたらす。
- ・北海道には、社会の流れ、政府の方針、土地の力、人材ポテンシャルといった様々なチャンスがある。東京に一極集中しがちで、特に海外から地方へ資金を回す流れをつくることは簡単ではないが、逆にその余地があるとも言える。
- ・北海道に眠る素晴らしい技術や研究に対して、外部からの刺激・資金を取り込み、きちんと成長するように支援していきたい。